

北海道稲門教育会会報

2019
1.9
発行

「新年を迎えて」

北海道稲門教育会会長

北広島高等学

校長

橋本 達也



新年あけましておめでとうございます。北海道稲門教育会の会員の皆様におかれましては、益々お元気で、早稲田魂を随所で発揮されていることと存じます。

三月末に定年退職に伴って、ご勇退された小島晶夫前会長から会長職を引き継がせていただきました。これまでは、自他共に認める宴会担当として会に関わらせていただいていたのですが、これからも変わらぬスタンスで皆様と付き合い合いをお願いしたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

えます。全国の稲門教育会が四十一年目を迎えますので、早い時期に設立されて今に至っていることを感じます。これまで、本会の立ち上げ、維持、発展にご尽力いただいた諸先輩方の功績に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

八月には恒例の夏期研修会を開催し、昭和五五年三月政経卒の、山谷吉宏元副知事を講師としてお招きしました。三十八年間に及ぶ道庁での勤務を振り返っていただきましたが、北海道という枠を遙かに超えたワールドワイドな仕事の数々を、エネルギー溢れる臨場感と共に伝えていただきました。中でも、ロシア政府との様々な駆け引き、交流の相手を欧米からアジアに転換し、現在のアジア各国からのインバウンドを実現させた仕掛けの数々、洞爺湖サミットの今だから言える舞台裏など、ワクワクするお話しとの連続でした。働き方改革の流れからすると真逆な日々の連続だったようですが、「どうせ仕事するのなら、それぐらいドカイことをやりたいな」と素直に思わせていただけの内容でした。近年、道職員の辞退者の急増が話題になっていますが、チャレンジ精神溢れる道職員を

送り出すことも、我々高校教員の責務の一つなのかと感じました。

ご存じの通り、首都圏のいわゆる難関大学における地方出身者の激減が大きな課題とされ、早稲田大学においても改革が試みられています。「めざせ！都の西北奨学金」は半期分の授業料を四年間免除し、他の奨学金との併用も認められるなど、魅力的な制度も充実しつつあります。教育学部においては、今年度から自己推薦入試を廃止し、指定校推薦を百九十名の規模で開始しました。新思考入学試験（地域連携型）をはじめ、各学部で独自の入試も創始していますが、仕組みがわかりにくかったり、地方の生徒にとっては敷居が高すぎたりと、なかなか目に見えた変化には至っていないのが残念です。

本会では、可能な限り大学職員を派遣していただき、大学の近況をみんなで共有していただきます。是非とも、これまで本会に参加したことのない校友の皆さんも、同窓生と出会い、母校の現状報告に接する絶好の機会ですので、高田馬場の居酒屋を覗くような気楽さで、遊びに来てくれることを熱望しております。

「教師が夢のある職業であり続けるために」

北海道芽室高等学校教頭 増田 康広



2015年3月23日4時間目、小樽潮陵高校4階第1講義室において、私の最後の授業が終わった。専門の世界史を通じて、学ぶことの楽しさや、歴史の本質を探究することによって得られる感動を生徒に体感してもらいたくて、精力を注いだ18年間だった。私の最後の授業は、学年主任をしていた3学年ではなく(卒業していない)、他学年に出張して1クラスだけ任された1年B組の世界史Bの授業であった。週3コマ受け持った授業は、1年間が終わる頃には、教科書は4分の3ほど進んでおり、1871年のドイツ統一とフランス第三共和政成立のところまでできていた。

授業を受ける生徒には関係のないことだが、そのころ既に教頭となることが決まっております、私にとっては世界史の授業を行う最後になるといって感傷があった。そういったこともあり、最後の授業の単元「ドイツ統一とフランス第三共和政成立」を扱う際に、授業展開とからめて、『月曜物語』の『最後の授業』を扱うこととした。これは、統一ドイツを出現させるにあたり最大の障害であったフランスの干渉に、プロイセン宰相ビスマルク

がナポレオン三世を挑発して(エムス電報事件、68)戦争に持ち込んだ普仏戦争(1870~71)の展開場面にあたる。この戦争の勝利によってドイツ人は悲願の統一を実現させる一方、中央ヨーロッパに強大な国民国家が出現したことで主要国の勢力バランスに変動をもたらし、以後統一ドイツの動向がヨーロッパだけでなく世界を震源させる起点となる。他方で、ビスマルクとの戦争に敗れた第二帝政下のフランスでは、帝政(帝政崩壊後は保守的な臨時政府)に反発するリベラリズムが噴出し、史上初の労働者による自治政府(パリIIコミューン)が2ヶ月間だが成立する。本論からは余談となるが、この1870~1871年は、ドイツ統一というナショナリズムの面でも、パリIIコミューンというソーシャリズム出現の意味でも、20世紀の動向に大きな影響を与えることとなる。

さて、授業の場面にもどるが、大方の事項を説明し、ワークシートを用いて、普仏戦争の歴史的意義について生徒同士で考察をさせたところまでで、終了チャイム3分前となった。私は、時間を見計らい、用意したプリントを配布した。前述の「最後の授業」の一説である。少し敷衍すると、普仏戦争に勝利したドイツ帝国が、敗れたフランス共和政府から獲得したアルザス・ロレーヌが小説の舞台である。

(石炭・鉄鋼の産地であるこの地域を獲得したドイツは、50億フランもの超多額の賠償金を資金源に、重化学工業を発展させていく。一方、重要工業地帯を奪われ、多額の賠償金を全額支払ったフランスは、ドイツ、憎しの怨念を国家復活のエネルギーとしていく。)

さて、終了時間3分前にプリントを配り、小説の場面を簡単に説明した。主人公がフランス少年といい、いつも悪さばかりして、アメル先生を困らせていること、この日も、例により、遅刻してしまい、おそろおそろ教室に入ってきたこと、普段は怖いアメル先生が、どうしたところか今日は怒らないこと、教室の後ろには、町の名士が立っていることなどから、フランス少年が、なにか重大なことが起こったことを感じていること、などを私は伝えた後、配布したプリントの朗読を始めた。それが、次の内容である。少々長いが引用する。

(アメル先生)「みなさん、私が授業をするのはこれが最後(おしまい)です。アルザスとロレーヌの学校では、ドイツ語しか教えてはけないという命令が、ベルリンから来ました・・・新しい先生が明日見えます。今日はフランス語の最後のおけいこです、どうかよく注意してください。」

この言葉は私(主人公フランス少年)の気を転倒させた(中略)

アメル先生は、フランス語について、つぎからつぎへと話を始めた。フランス語は世界中でいちばん美しい、いちばんはつきりした、いちばん力強い言葉であることや、ある民族が奴隷となっても、その国語を保っているかぎりは、その牢獄の鍵を握っているようなものだから、私たちのあいだでフランス語をよく守って、決して忘れてはならないことを話した。(中略)

とつぜん教会の時計が二時を打ち、続いてアンジェリユスの鐘が鳴った。と同時に、調練から帰るプロシア兵のラッパが私たちのいる窓の下で鳴り響いた・・・アメル先生は青い顔をして教壇に立ち上がった。これほど先生が大きく見えたことはなかった。

「みなさん、」と彼は言った。「みなさん、私は・・・私は・・・」

しかし何かが彼の息を詰まらせた。彼は言葉が終わることができなかった。

そこで彼は黒板の方へ向きなおると、白墨を一つ手にとって、ありったけの力でしっかりと、できるだけ大きな字で書いた。

「VIVA、FRANCE！」(ドーデー『月曜物語』「最後の授業」 岩波文庫)

現実の私の最後の授業も、ここまで読んだときに、4時間目の終了を告げるチャイムが鳴

った。と同時に、体育(調練)から教室に戻る生徒たちの声が廊下で鳴り響いた。私は、教壇中央に立ち(もともと立っているが)、「みなさん、私は・・・私は・・・」と言ったきりで声が詰まり、授業を終わらせることができなかった。そこで私は黒板の方へ向き直ると、白チヨークを一つ手にとって、ありったけの力でしっかりと、できるだけ大きな字で書いた。「VIVA、世界史！」



こうして私の最後の授業は終わったが、その後生徒から思いもよらぬ花束贈呈があり、記念に写真をとって、教壇から別れを告げた。感無量の、教科教員人生であった。そのときの写真を掲載する。

さて、今回会報に寄稿したタイトルは、この原稿を書いている12月23日現在、有志研究会で扱うロールプレイング題材の作成と関わっている。研修会での題材に、指導熱心な男性教諭が学級経営と保護者対応のストレスから、息子と妻へ遺書を残して46歳で縊死した事件をとりあげてみようと、苦闘していたからである。管理職となつて、学校では嫌なこと(正しくは学校課題という)ばかりが間断なく起こり、責任がのしかかる教頭という職種を4年続けているうちに、いつの頃からか、教員としての誇りや足場が不明確となり、私自身、教師という職業に明るい未来が描きにくくなっていった。教頭職に限らず、現場は少なからず疲弊しており、きれい事ではない「学校における働き方改革」は、今や待ったなしの状況だと痛感している。

本来、学校は様々な教育活動を通じて生徒が学び、成長していく場であり、その最前線にいる教員は、4年前の3月23日に私が体感したような喜びが得られる、夢や希望がある現場であ

る。ところが、今後の社会情勢は、人口面でも、技術進歩面でも、国際関係面でも劇的な変化が予測され、そのなかで生きていく子どもたちの資質・能力を育成するための様々な課題が学校に求められており、教師業務の困難さは増すばかりである。教頭となった今、自問自答して出てくる答えは、社会の変化に柔軟に対応できる教員を育成することであり、高い資質を備えた教員が、個人プレーではなく組織で課題に取り組み技量を併せ持つよう手助けすることであると、改めて自分の教員としての足場を確認した次第である。

北海道高等学校PTA連合会事務局長

井村美彦 (51 教社)



恥ずかしながらの近況です。現在、北海道高等学校PTA連合会で事務局のとりまとめをしています。高校教育そのものではありませんが、各学校の状況に触れる機会はたくさんあります。たまに、道教委の審議会で見聞らしきことを話す機会があり、年甲斐もなく緊張したり

しています。

年に5〜6度東京に出張があるので、早稲田のキャンパスに向くこともあります。今の学生はまじめでマナーも大変いいように思えます。美しい女子学生は特にそうです。間違っても早稲田大学教授？の私に頭を下げ「こんにちは」とほほえみます。素直な心は一生の財産です。

実は私こと9月の地震で被災しました。自宅は清田区里塚1条1丁目です。連日の地震報道の中心にありました。流動化した地下で発生した地滑りでできた空洞のために家が大きく傾き「全壊」の扱いです。おまけに数日後の余震でアキレス腱を断裂し、ひと月近く入院するという大きなおまけも付きました。今は賃貸マンションの8階で眺めは良いが狭い慢です。札幌市役所は親切で丁寧に対応してくれます。私は被災しただけで偉くもないのに恐縮するくらいです。

人生は何が起きるかわからず、何があっても何とかなるといえるのは大事なことで、早稲田OBにはその力がありそうです。英単語を死ぬほどたたき込むという難行苦行を乗り越えて入学し、腹が減ったら腐りかけのパンでも食べるという、どん底学生を過ごしたのですから。

「自分たちさえ良ければ」の壁

札幌東陵高等学校 大屋敷

全



私が北海道稲門教育会に出席するようになったきっかけは、前々任教である網走南ヶ丘高校に勤めていた時、当時校長だった前川洋先生（第16代会長）からお誘いをいただいたことでした。私は都留文科大学を卒業した後、早稲田大学院教育研究科修士課程に入学し、修士課程修了後に高校教諭となったのですが、前川先生は私に「早稲田卒の高校の先生が集まる会がある。先生も大学院は早稲田卒なのだから、是非いらつしやい。」と誘ってくださいました。誘っていただいたのはありがたい反面、早稲田の学部卒ではない私が早稲田OBを名乗ることにためらいもあったので、自分のような者が行っているのか、と躊躇する思いもありました。しかも、管理職や行政の方々が多い

らっしゃる会だということを目にしたので、「これは敷居が高いぞ」とも思いました。それでも、校長先生からのせつかくのお誘いなので、とにかく行ってみようと思いい出席を決意しました。

出席して感じたことは、先輩諸氏のお話は大変勉強になり、自分が仕事を進める上で、たくさんの方のヒントをいただけたということです。様々な立場でご活躍されている先輩方から、仕事の経験談や教育に対する考え方を拝聴し、多くのものを得ることができました。今年には校務のため出席することができず誠に残念ですが、今後とも先輩からご指導をいただければと思います。

さて、最近仕事をしていて感じることは、「自分たちさえ良ければ」という壁をどう乗り越えるか、ということ。自分たちさえ良ければ」と考えて行動する高校生はさすがにゼロではありませんが、そう多くはないように思います。しかし、「自分たちさえ良ければ」と考える高校生は増えていくような気がします。自分と仲の良い友達、自分と所属するグループのメンバーのことは考えるけど、自分と仲良しではないクラスメイト、自分とは違うグループの人のことは考えないで行動することがあるように思います。この「自分たちさえ良ければ」という考えがホームルーム活動や部活動にもは

びこって、やりにくさを感じることはありません。自分とは関係の遠い他者、仲のあまり良くない人にちよつと気を遣えるようになるだけで集団はものすごく良いものになるのに、なかなかそこまで思いが至らないようです。

ただ、考えてみればこの「自分たちさえ良ければ」という思いは日本の高校生だけが持つものではなく、世界レベルで進んでいるのかも知れません。「自分の国さえよければ」と考える自国優先主義、保護主義を掲げる政党が世界各国で得票率を伸ばし政権を獲得していることが、それを示しているように思います。

一介の教師である私が、「自分たちさえ良ければ」という風潮に挑むことは、言ってみれば風車に戦いを挑むような無謀な戦いなのかも知れません。しかし、他人の立場を考えて行動できる生徒を育てることが、教員として高校として大事なことで信じています。日々の地道な実践を通して、「自分たちさえ良ければ」の壁に立ち向かっていきたいと考えています。

近況報告（返信葉書・メールより・敬称略）

足利 啓朗

幹事ご苦勞様です。1月9日の稲門会は所用のため、欠席させて頂きます。「♪現世を忘れ

ぬ久遠の理想」のもと、ご盛会と稲門教育会の更なるご発展を祈念申し上げます。

阿部 穰

所用のため、残念ながら欠席させていただきます。作句年10月20日に閉校記念式典を終え、目下、閉校に向けた諸業務にあたっているところです。来年は出席できればと思っております。

阿部 大洋

今春、無地定年退職、現在は、日々37年の疲れを癒す日々を過ごしていますが、ソロソロ、37年の経験を活かすべく活動を始めようかと考えています。

荒井 到

先約がありまして申し訳ございません。昨年（2018年）3月、師匠東家夢助が亡くなりました。その跡を受けて小学校で下手な落語を演ずる様になりました。御盛会をお祈り致します。

五十嵐 弘

体調悪く欠席いたします。

石原 卓典

皆様、ご無沙汰しています。親の介護という新たな課題に挑戦中です。

五十川 智美

この度は、稲門教育会のご連絡ありがとうございます。残念ながら冬季遠征に出ており、欠

席となります。皆様にお会いできることを心より楽しみにしています。今後も宜しくお祈りします。

伊藤 芳明

退職が1年延長になり、気合いを入れ直しているところです。貴会のご盛会をお祈り申し上げます。

稲富 弘隆

家事都合上出席できませんが、皆様のご健康とご活躍を記念しております。

今田 勇次

天皇が記者会見で述べていた「戦後生まれ」の人々が大半を占めるようになり、このことが、「戦争」というものの持つ本質を体験的に知る者との間のどうにも埋めがたい乖離感を生んでいるのが現状です。大きなうねりの中で、安保騒動の中で揺れる大学生の自分の姿が思い出されます。御会のご発展を心より祈念いたします。

大久保 克洋

ご案内ありがとうございます。腰など一部がガタも来始めておりますが、概ね順調に人生を過ごしております。ご盛会をお祈りいたします。

大塚 誠之助

今まで、入院歴がまったくなく、健康には自

信があつたのですが、年には勝てず、昨年9月末に体調を崩し、1ヶ月半程入院しました。その後の経過も良く、元気で正月を迎えております。今年も北方領土返還要求運動と趣味の自家菜園が続けます。稲門教育会の総会・懇親会のご盛会を祈ります。

大場 宏

皆様の御健勝と益々の御活躍をお祈りいたします。北海道の子供達の学力向上といじめ対策にご尽力ください。

大東 俊郎(9代会長)

体調を崩し入院・加療しましたが、仲々本復には至らず、衰残を実感しております。よって、他行もかなわず、欠席させていただきます。入院中は鴎外の「北条霞亭」を読みましたが、仲々骨の折れることでした。近代の文学遺産を伝えることの難しさを痛感しています。

大前 末行

毎年稲門会のご案内をいただき、ありがとうございます。4年前に37年間勤務した北海道校を定年退職しました。良い教え子達に恵まれ幸せな教員生活でした。現在は悠々自適とは言えないものの自宅付近の公園周辺や河川敷を愛犬(7歳の柴犬)と毎日1時間ほど散歩し、健康維持に努めています。散策中現役時代まるで気づかなかった四季折々の自然の美しさを肌で感じながら楽しく過ごしています。そし

て、時折青春時代を過ごした母校、早稲田を懐かしく思い出しています。ご盛会をお祈りするとともに会員の皆様のご活躍とご健勝を願っております。

加藤 剛

難しい時代になりました。心のよりどころは、青春を過ごした日々の記録…会員の皆様、寒さ厳しき折、どうぞお体にはご自愛を。元気に頑張っております。

吉瀬 献策

高等学校書道研究会の会長業務のため、同時に総会・懇親会があり出席が叶いません。悪しからずお許しください。本年度は、全国校長会の研究発表準備に始まりてんこ盛りの日々を過ごしております。

小島 晶夫(17代会長)

当日、室蘭を離れることができず、欠席とさせていただきます。

近藤 久美

残念ながら、9日は既に札幌を離れていますので欠席させていただきます。またの機会にぜひ。

佐藤 佳明

小生終活をそろそろ始めております。札幌へ出向くこともあまりありません。山登りの道具類もかなり始末、75〜6歳位まで低い山にボチボチと考えています。あと古典サークル、カラオケ、そば打ちが何歳位まで出来ることや

ら。皆様には大変お世話になりました。私の名も名簿から削除願います。ありがとうございます。しました。

篠崎 雅之

母の介護でしばらく身動きが取れません。皆様、よいお年をお迎えください。

柴田 英昭

残念ながら参加できません。また宜しくお願います。

菅原 雅之

学校をあけられません。欠席させていただきます。本道の教育は稲門出身者が担うべし！若手の皆さん、管理職を目指してください。

武部 文吉

取り立ててお知らせするほどの記事もなく、まあまあ健康で平穏な日々を送っております。

田村 潤

大変皆様にはお世話になっております。卒業生を出して学年主任を終えることができました。現在総務部長として業務に就いています。13名の新入部員が入り、新人戦も15名で参加することができました。今年も先輩先生方の声に耳を傾け、後輩先生の動きに負けないように「働き方改革」を超えたベスト状態の中で微力を発揮できればと思っています。母校の発展と

皆様のご健勝を祈念します！

千葉 浩次

昨年定年退職し、現在、苫小牧地区交通安全協会に勤務しております。皆様のご健勝とご盛会を祈念申し上げます。

永田 政允

高齢者（自分も）の生きがいと地域活性化の為に高齢者芝居に取り組んでいます。北海道の歴史に関わる芝居を創作したいと思っています。同期生の西木正明（作家）の「辻政信」関係の小説の出版を待っているところです。まあ、元気にしています。

新野 健（二十一代会長）

皆様に宜しくお伝えください

西澤 俊輔

七飯の赴任し、最初の冬を迎えます。光沢は寒いですが、来る春に向け学びに勤しもうと思えます「正しく、力強く、永久の春が微笑めよかし」（有島武郎）

野村 耕介

国際バカロレアの5年目を迎え、Dコースのスタートの年となります。日本語Eが普及するよう全力で挑みます。

原山 勉（10代会長）

頸椎症による手の痺れがあり、リハビリのため通院中です。70代後半より身体のガタつきが目立ち始めました。「ポーツと生きてんじや

ねえーよ」と言われぬためシャキツとしなければなりません。健康回復が先の方です。ままなりません。欠席をご容赦ください。

平田 裕一

高齢者の仲間入りをしています。まだ現役教師として働いています。今月（一日）8人目の孫ができる予定です。

福田 誠行

北海道稲門教育会の益々のご発展を祈念しております。北海道の教育振興充実のために頑張ってください。

福田 敏憲

いつも皆様にはお世話になっております。今回は、所用のため、残念ながら欠席させていただきます。校友皆様と、これからの北海道教育について明るく、前向きに語り合える日を楽しみにしております。今後ともご指導の程、宜しく願います。

前川 洋（16代会長）

退職しましたが、道研でそのまま居候しています。稲門の坪川先生のご厚情により、わがままさせていたでいます。わがままついでに、退職しましたので、時々、参加させてください。

松田 豊満

今年86歳、足・腰が弱くなり、外出が億劫

になっております。会員の皆様の健康を祈念しております。

水谷 哲彦

今回限りで案内は不要です。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございます。

森 修一

津田沼校では、早稲田と千葉大両方合格した生徒は早稲田を選ぶケースが多いのですが、早慶では慶応に流れる傾向がありいつも残念に思っています。交友の皆様の益々の活躍を期待いたしております。

森 浩之

母校で毎日楽しく過ごしています。

吉澤 税

長万部3年目を終えようとしています。盛会を祈念しております。

吉澤 正伸

今回は出席でそうありません。皆様に宜しくお伝えください。ご盛会となりますように。31年4月からはほぼ無職になります。

事務局より

*移動・退職の際には、事務局までご連絡ください。

●ホームページをご利用ください。

<http://tomonkyoikukai.web.fc2.com/>

こちらのURLで早稲田情報の紹介、校友同士の情報交換等を行っていきたいと思いますので、是非ご利用ください。注意点がいくつかございます。

○ブログではありませんので、スクリーンネットを通して閲覧できますが、無料のホームページアカウントということもあり、検索エンジンに引っかけられないようです（理由はわかりませんが）。御手数ですが、右のアドレスを直接打ち込んで、ブックマーク登録をしてご利用ください。

○無料のホームページの制約として1メガバイト以上の写真や書類を貼り付けることができません。ものによっては不鮮明な場合もあるかと思いますが御容赦ください。

問い合わせ、ご要望、転勤による連絡先の変更等ありましたら、左のアドレスにメールあるいは白石高校の方にお電話いただければ幸いです。

i.akira43@gmail.com

